

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価概要（全体）

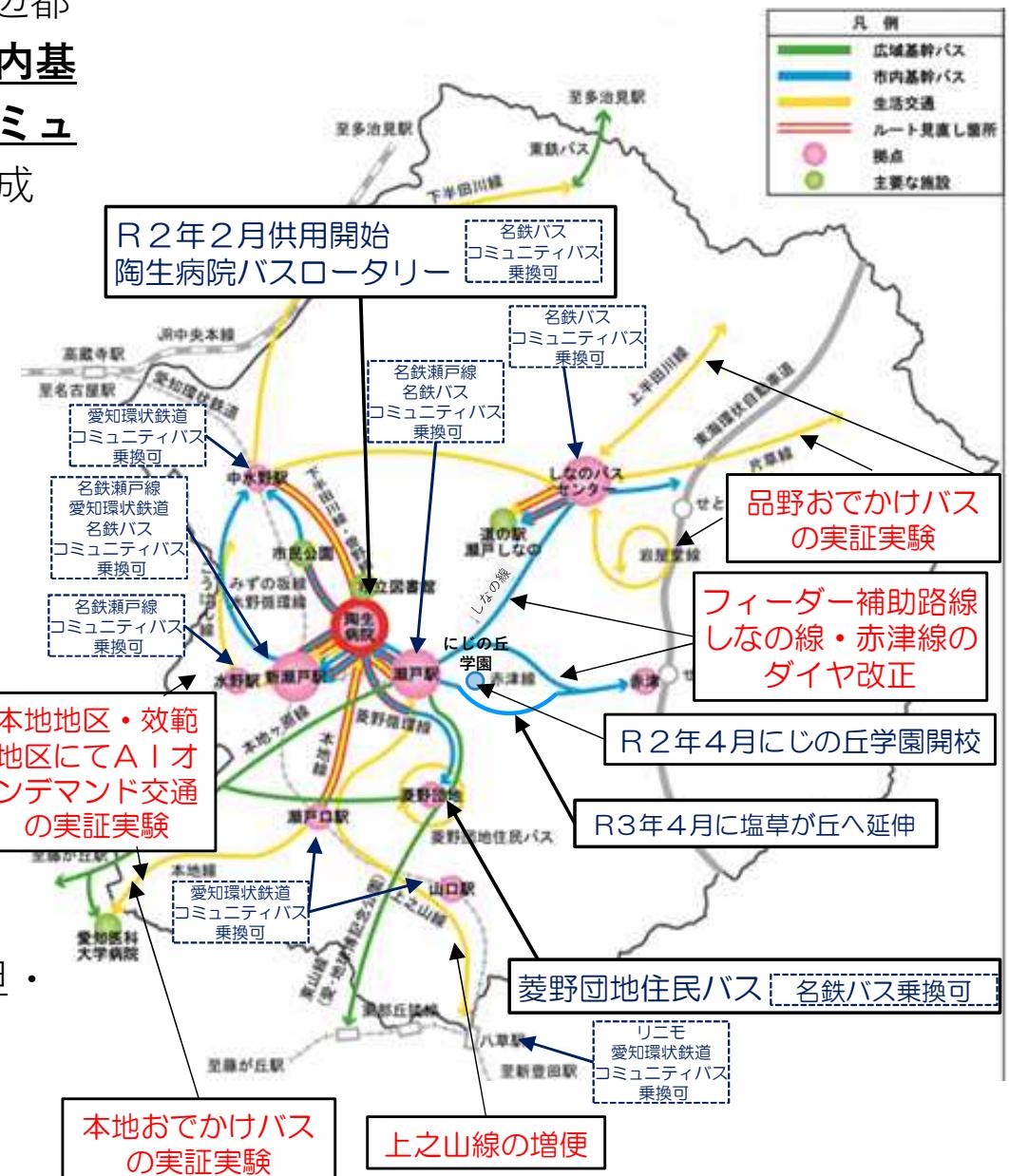
瀬戸市地域公共交通会議

平成 21 年 4 月 1 日設置

- 令和元年 6 月 27 日 瀬戸市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：令和元年 6 月～令和 9 年 3 月)
- 令和 6 年 2 月 1 日 瀬戸市地域公共交通網形成計画改訂
(計画期間：令和元年 6 月～令和 9 年 3 月)
- 令和 7 年 6 月 25 日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

◆瀬戸市の現状 (R7.4.1)

- 人口約12.5万人（高齢化率30.4%）⇒人口減少、高齢化が今後も進行
- 瀬戸市の公共交通網は、鉄道を基軸とし、周辺都市を連絡する**広域基幹バス**や、拠点間を結ぶ**市内基幹バス**、これらに接続し居住地等を運行する**コミュニティバス等**により公共交通ネットワークを形成
(右図参照)



方針1 都市構造を支える公共交通の確保

目標①快適で円滑な乗継が可能な乗り換え拠点形成

◆市内基幹バス、コミュニティバス

- コミュニティバス品野3線利用者の約65%が乗り継ぐ市内基幹バスしなの線との乗り継ぎの向上等を図った品野おでかけバスの実証実験を継続
 - ⇒
 - ・ 大部分の方が利用するしなのバスセンター・バロー品野店を起点とした運行
 - ・ デマンド運行を取り入れた自宅までの送迎等によるサービスの向上

しなのBCにおける名鉄バス・コミバス間
平均乗継時間：約15分→約8分

品野おでかけバス1日当たり利用者数
R7:約30.7人 (R5:約27.7人)

しなのBC1日当たり利用者数
R7:約10.5人 (R5:約6.8人)

利用者数30人以上、しなのBCでも10人以上と
実証実験前よりも利用水準を維持

目標②拠点間の交通ネットワーク確保・維持

◆市内基幹バス

- 市内基幹バスしなの線「古瀬戸」(上り)の移設

横断歩道から近い位置にバス停があったことで交通に支障が出ていたが、移設することでスムーズな交通ネットワークを確保



品野おでかけバス説明会の様子



品野おでかけバス運行風景



「古瀬戸」(上り) ※移設後

方針2 生活を支える公共交通の確保

目標③生活交通の確保・維持

◆コミュニティバス

- バス停から自宅までの移動の相談が多い路線にてデマンド運行を取り入れた実証実験を実施中※R6開始
(品野おでかけバス・本地おでかけバス)
- 利用者の増加により遅延が発生していた上之山線のダイヤ変更
⇒ 利用状況や地域特性に合わせた運行方法の検討を進める

アンケート等を実施し、より良い運行方法の模索

◆新たなモビリティ・移動支援システムの導入

- 愛知県のモデル事業の採択を受け、A I オンデマンド交通の実証実験(チョイソコセとあさひ)を実施(R6.10～R7.1)
⇒
 - ・行政界を超えた広域連携の需要があることが分かった
 - ・こうはん線「根の鼻町集会所」バス停新設の検討
 - ・瀬戸市民、尾張旭市民の乗り換えの利便性向上

利用状況や地域特性に合わせ、既存の運行方法にこだわらない最適な交通モードの模索

実証実験の結果からわかる地域の移動需要に寄り添った運行方法の検討



デマンド運行を取り入れた
おでかけバスの実証実験



品野おでかけバスの運行区域



A I オンデマンド交通実証実験

方針3 持続可能な公共交通の確保

目標④市民・交通事業者・行政の協働による利用促進

目標⑤公共交通利用意識の醸成

◆市内基幹バス・コミュニティバス

●バスの乗り方教室の開催 (R7は①3回、②3回)

①小学校や保育園で市民・事業者・警察・行政が連携開催

②地域行事での乗車体験とバスの啓発活動

- ⇒ ①は小学校への事前ヒアリングにて重点内容を決定したうえで実施（乗車マナーの徹底やICカードでの乗車方法）
- ②は地域行事にPRコーナーを設置することで、参加者がバスに親しみ、乗降方法を理解する機会を創出

●ながくて交通フェスタへの出展

- ⇒ 他地域で開催されるイベントに出展することで、新たな利用者層に対しての周知

バスへの愛着を深め、公共交通の利用のハードルを低減する取組を継続的に実施

●バス広報を地域住民と行政が協同で作成（しなの線沿線自治会）

- ⇒ 公共交通の利用状況の配信、イベント開催報告など

市民に対して公共交通に関する関心の創出



重点内容に沿ったバスの乗り方教室の様子



ながくて交通フェスタの様子

品野おでかけバスの社会実験を実施中！

令和6年4月より地域に合った運行を目指してコミュニティバス品野3線（上半田川線・片草線・岩屋堂線）を対象に「品野おでかけバス」の社会実験を実施しています（令和7年3月31日まで（予定））。アンケートなどでいただいたご意見を踏まえ、より多くの方に利用してもらえるよう今後も地域と市でより良い運行を検討していきます。

品野おでかけバスの1日あたりの利用状況



単位：人

路線	令和5年度	令和6年度	令和6年度との差
上半田川線	13.1	13.2	+0.1
片草線	7.5	8.2	+0.7
岩屋堂線	7.3	9.4	+2.1
その他エリア（おかえり号）	-	0.2	+0.2
3線合計	27.9	31.0	+3.1

バス広報の記載内容（一部抽出）

瀬戸市地域公共交通網形成計画の評価指標について

令和元年6月に瀬戸市地域公共交通網形成計画を策定し、以下5つの評価指標を掲げた。
各指標の現状値と目標値を示す。

評価指標	直近の現状値 (時点)		目標値 (R5年度)	目標値 (R8年度)
①公共交通の満足度	32.8%※1 (R1年度) 38.4%※1 (R4年度)		55.0%	60.0%
②鉄道の利用者数	7,057,664人 (R4年度) 7,385,421人 (R5年度)		8,076,000人	8,141,000人
③公共交通300m圏人口カバー率	87% (H30年度) 87%※2 (R5年度)		90%	90%
④市内基幹バスの 収支率・利用者数	収支率	39.6% (R5年度) 40.8% (R6年度)	54.0%	54.0%
	利用者数	747,348人 (R5年度) 744,304人 (R6年度) 376,837人※3 (R7年度)	708,500人	708,500人
⑤コミュニティバスの 収支率・利用者数	収支率	10.8% (R5年度) 12.4% (R6年度)	15.0%	15.0%
	利用者数	87,478人 (R5年度) 91,579人 (R6年度) 50,141人※3 (R7年度)	93,500人	93,500人

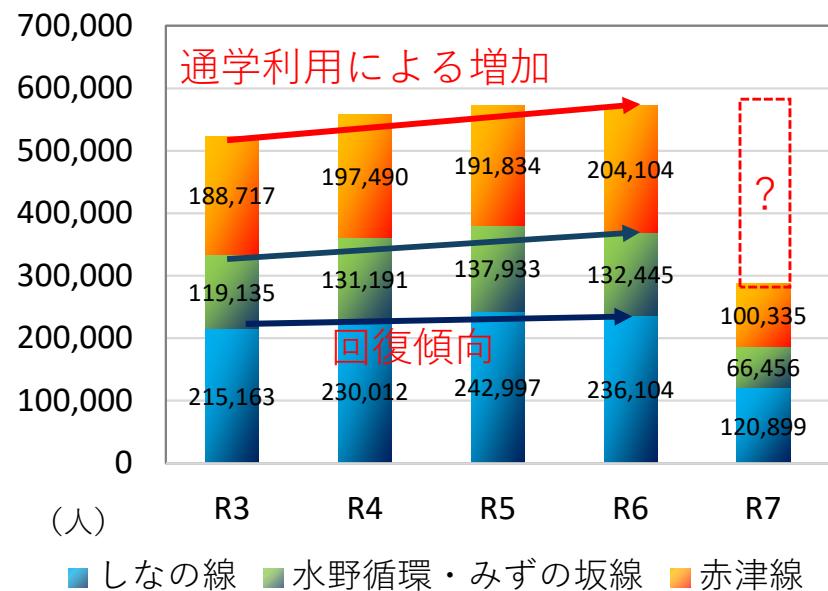
利用者・収支率は徐々に回復傾向がみられている

※1公共交通の満足度のR1・R4年度値は第6次瀬戸市総合計画市民アンケート調査を使用しており、アンケート内容が一部異なるため参考値

※2GITSシステムの変更により算出方法に変更あり

※3R7年度値は4～9月の実績値

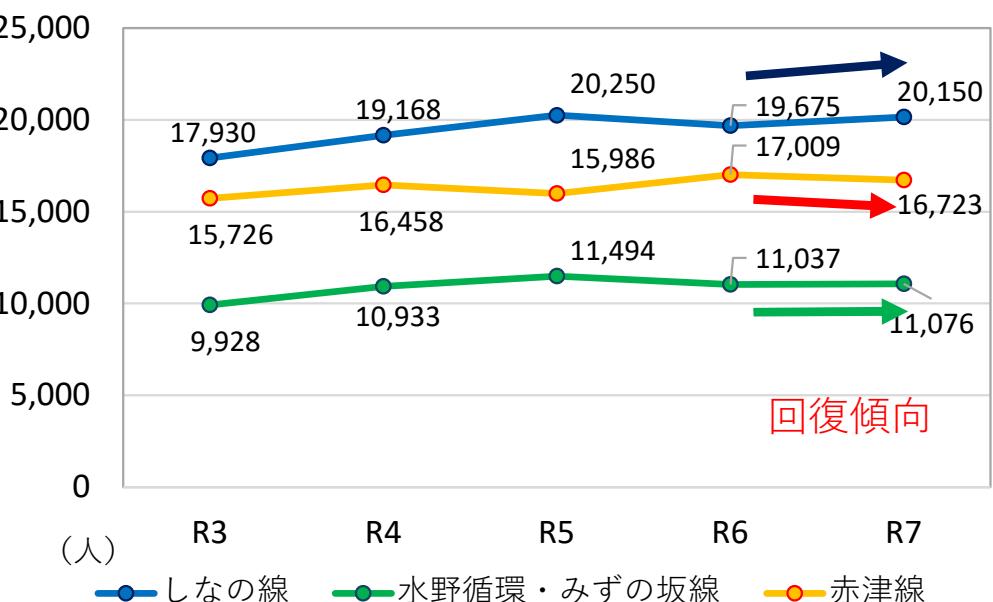
市内基幹バスの乗降者数推移



市内基幹バスの年度別乗降者数推移

※R7年度値は4~9月の実績値

月当たりに換算

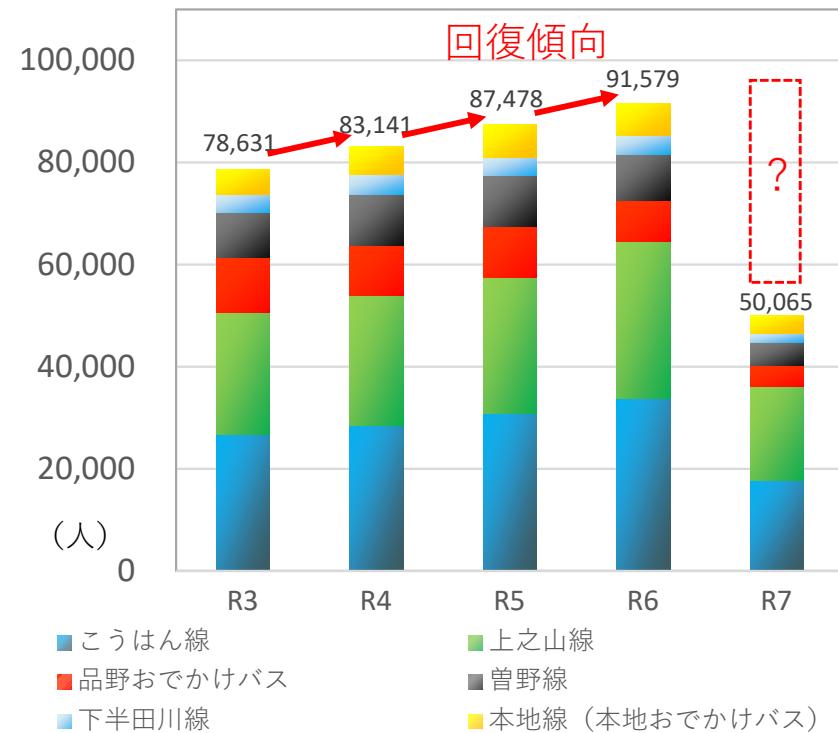


市内基幹バスの月当たり乗降者数推移

※R7年度値は4~9月の実績値

乗降者数はR3以降回復傾向にあり、
目標値を達成しています

コミュニティバスの乗降者数推移

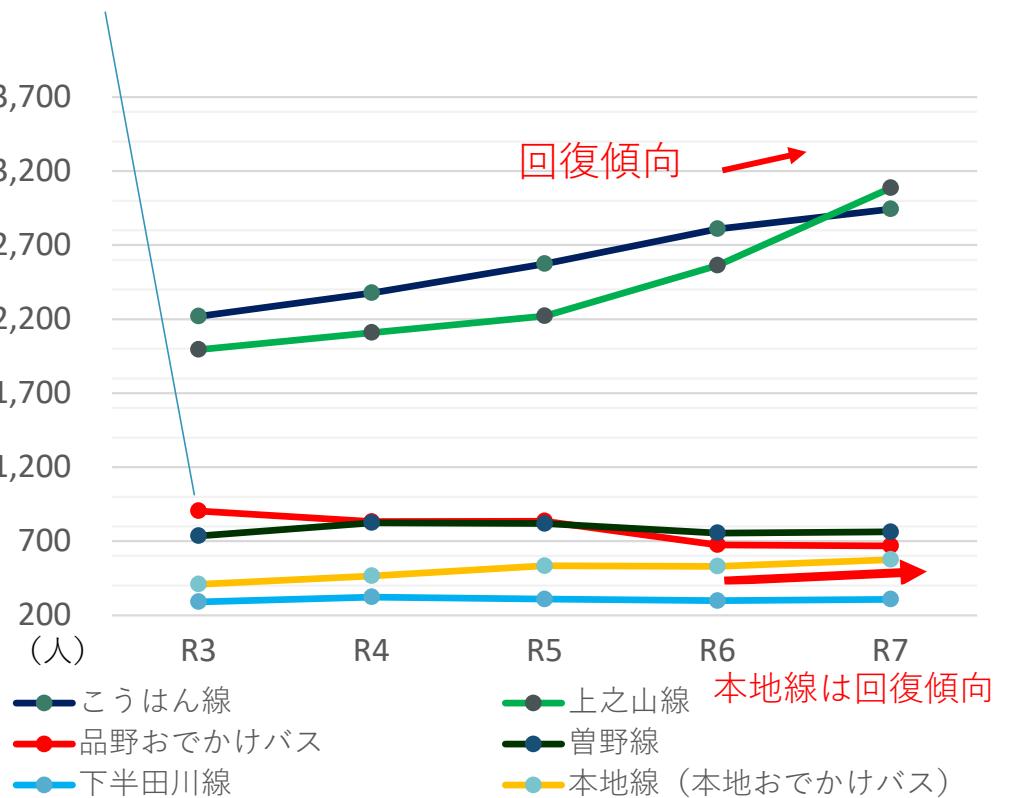


コミュニティバスの年度別乗降者数推移

※R7年度値は4~9月の実績値

月当たりに換算

品野おでかけバスの減少は運行日数による影響
(1日当たりの利用者は増加)



コミュニティバスの月当たり乗降者数推移

※R7年度値は4~9月の実績値

乗降者数はR3以降増加を続けており、
目標値を達成しています。

【生活交通確保維持改善計画（市内基幹バス赤津線・しなの線）における評価】

◆定量的な指標として「利用者数」を目標値として設定

対象事業	R7目標値 R6.10～R7.9	R7実績値 R6.10～R7.9	達成状況	達成率
赤津線	193,700人	205,500人 <small>参考R6:196,600人</small>	達成	106.1%
しなの線 (旧瀬戸北線)	245,400人	236,415人 <small>参考R6:239,769人</small>	未達成	96.3%

◆目標の達成状況の考察

- ✓赤津線は、にじの丘学園の児童・生徒数の増加及び塩草が丘の人口増加により、利用者が増加したため、目標値を達成することが出来た。
- ✓しなの線は、沿線地域において少子高齢化と人口減少が進んでいることが利用者数減少の理由の一つとして推測している。

課題

利用促進を図り持続可能な公共交通として維持していくため、

「各公共交通間のネットワーク確保」及び「わかりやすい交通情報等の提供」を実施

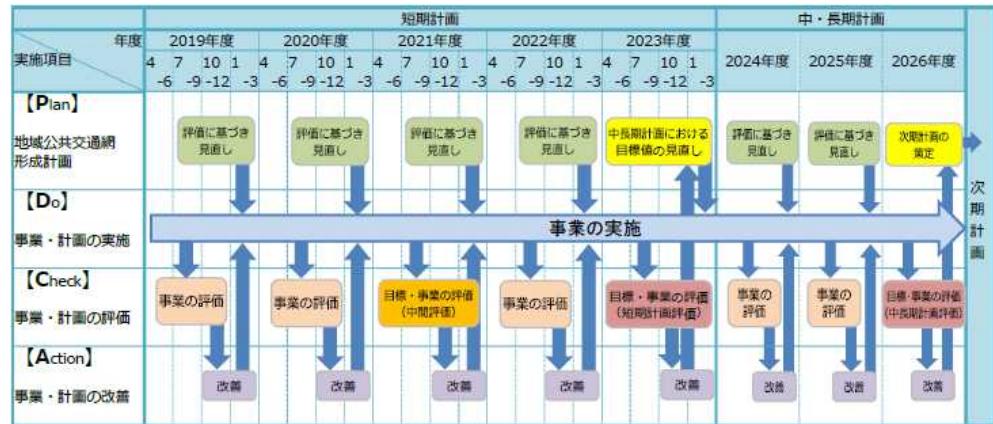
課題	①各公共交通間のネットワーク確保
対策	<p>✓鉄道駅とのネットワーク確保のために不可欠な赤津線の持続可能な運行のため、利用者数が少ない臨時便の必要性を検討する</p> <p>✓しなの線は、しなのバスセンターで接続するコミュニティバス（品野おでかけバス）の乗り継ぎやデマンド運行を継続しつつ、特に利用の多い午前中のデマンド車両の大型化など、より地域に合った運行を検討することで、両者の利用促進を図る</p>

課題	②わかりやすい交通情報等の提供
対策	<p>✓新たな利用の誘導や利用時間帯の平準化を図るため、地元運行協議会と連携してバス広報を発行し、利用が少ない便や細かい利用方法の情報提供を行う</p> <p>✓公共交通への愛着を深めるため、地域行事等への出展回数を確保し、バスに触れる機会を創出し、地域行事において交通情報を提供する</p> <p>✓沿線協議会等が開催される際は、引き続きダイヤの検索お試し会を実施することとし、乗継情報の検索利便性を体感してもらい、高齢の利用者に対して公共交通の利用のハードルを下げるための情報提供を継続する</p>

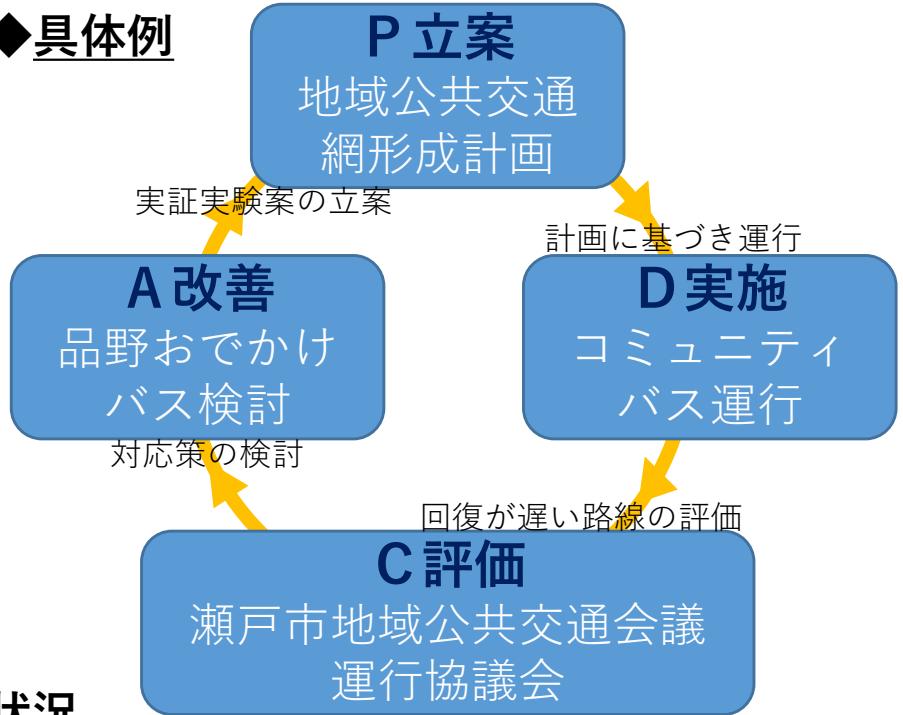
年度	直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
令和5年度	■バスの乗り方教室等の行事・イベントや運行協議会等においても、G T F S化によるGoogleマップ対応等の情報提供を行い、利用者に利便性を体感してもらうなど、行動変容に向けた更なる利用促進について検討・実施されることを期待します。	■イベントにおいてGoogleマップのダイヤ検索方法の周知を行いました。また、運行協議会において検索お試し会を実施し、実際に検索する機会を設けました。	■引き続きイベントや運行協議会が開催された際には、Googleマップのダイヤ検索方法等の周知に努め、分かりやすい情報提供を行います。 ■地元運行協議会と連携して発行しているバス広報において、簡単なスマホの操作方法を記載するなど、ダイヤ検索に抵抗を感じられない情報提供を行います。
	■商業施設等とも連携し、バスだけでなくタクシー、鉄道との乗り継ぎ等を含めた公共交通全般の情報提供を行うと共に、乗り継ぎ抵抗の緩和に向けて待合環境の改善が検討されることを期待します。	■商業施設等と連携し、ダイヤ及びタクシー情報等が掲載されている公共交通マップの提供やコミュニティバスの他にタクシーの情報を含めた店舗掲示を行いました。 併せて乗り継ぎ抵抗の緩和のため品野おでかけバスにおいて市内基幹バスしなの線との乗り継ぎ時間を大きく改善したダイヤを設定しました。	■引き続き商業施設等と連携し、バスだけではなくタクシー等他の公共交通を含めた情報提供を心掛けます。また、引き続き乗り継ぎ需要がある他公共交通機関を意識したダイヤ設定を行います。 ■待合環境を維持するため、引き続き公共交通接続点において設置されている屋根やベンチの整備、維持を続けます。

年度	直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
令和 6 年度	■利用者や各種主体と連携した、行動変容や認知度向上、利用促進に繋がる取組が継続されることを期待します。	■昨年度に引き続き、市民、交通事業者、行政と連携したイベントを実施しました。新たに他地域のイベントにも出展し、認知度向上に努めました。	■公共交通への愛着を深めるため、イベントへの参加を継続します。
	■需要や利用状況等を検証し、地域特性に適合した公共交通網の構築に取り組まれることを期待します。	■地域で実施した実証実験をもとに、市民にとってより利便性の高い運行方法への変更を検討しています。	■運行協議会と意見交換を行い、運行方法の変更を実現するために協議を続けます。変更後も利用状況を注視し、さらなる利便性向上の方法はないか検討します。

◆推進体制 (瀬戸市地域公共交通網形成計画抜粋)



◆具体例



◆地元運行協議会及び瀬戸市地域公共交通会議の実施状況

開催日	主な議題
令和6年 6月18日	<ul style="list-style-type: none"> ■生活交通確保維持改善計画及び地域間幹線系統確保維持計画 ■A-Iオンデマンド交通の実証実験
令和6年 12月25日	<ul style="list-style-type: none"> ■令和6年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価 ■市内基幹バスしなの線のバス停移設
令和7年 3月25日	<ul style="list-style-type: none"> ■令和7年度瀬戸市地域公共交通会議予算 ■瀬戸市地域公共交通網形成計画の中間評価 ■市内基幹バスのバス停別乗降状況
令和7年 6月23日	<ul style="list-style-type: none"> ■生活交通確保維持改善計画及び地域間幹線系統確保維持計画 ■コミュニティバスのバス停移設について（上之山線・本地線）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 7年12月 1日

協議会名：瀬戸市地域公共交通会議

評価対象事業名：地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A ・ B ・ C 評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A ・ B ・ C 評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかつた場合には、理由等を分析の上記載】 【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載	
名鉄バス株式会社	しなの線	◆しなの線において、利用者へのアンケート調査からコミュニティバスと名鉄バスの乗り継ぎ状況を確認した。 乗り継ぎの利用が多くため、実証実験を行っている品野おでかけバスの運行内容の変更を協議し、両者の利用促進を図った。 ◆沿線自治会等と連携し、地域行事等においてバスの乗り方教室を開催し、利用促進を図った。 ◆路線内に存在した危険なバス停を移設し、待合者及び車両の安全を確保し、利便性を向上させた。	A	計画どおり事業は適正に実施された。	目標値:利用者数 ◆利用者目標245,400人に対して、利用者数が236,415人となり、利用者目標にわずかに届かなかつた。 R2年以降の利用者数は、新型コロナ感染拡大により利用者が大幅に減少したが、徐々に回復し、R7年度の利用者数はコロナ禍以前(R1年度)の水準までおおむね回復している。このことからも、本路線が依然として地域にとって通勤・通学・通院などで必要不可欠な路線となっていることがわかる。	◆名鉄瀬戸線及び愛知環状鉄道の駅への接続により、通勤・通学の移動手段となる路線であり、しなのバスセンターで接続するコミュニティバス(品野おでかけバス)の乗り継ぎやデマンド運行を継続しつつ、より地域に合った運行内容に変更を予定しており、両者の利用促進を図る。 ◆公共交通への愛着を深め、公共交通の利用のハードルを下げるため、地域行事等へ出展し、バスに触れる機会を創出する。 ◆高齢の利用者に対して乗継情報の検索利便性を体感し、乗り継ぎの抵抗を減らすため、引き続き沿線協議会等の際に検索お試し会を行う。高齢の利用者にとってダイヤ検索がより親しみやすくなるように内容を工夫する。
名鉄バス株式会社	赤津線	◆コミュニティバスの車内等に乗継マップを設置することで赤津線を含めた他路線の情報提供を行い、広域的な公共交通全般の情報提供を行った。 ◆学校及び運行事業者等と連携し、重点項目を事前に調整のうえにじの丘学園にてバスの乗り方教室を開催することで、赤津線全体の利用環境の改善及び利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適正に実施された。	目標値:利用者数 ◆利用者目標193,700人に対して、利用者数が205,500人となり、利用者目標を達成することができた。 令和6年度以降から利用が改善され続けており、地域にとっては引き続き通勤・通学などにおいて必要不可欠な路線となっていく。	◆にじの丘学園(小学校)を対象にバスの乗り方教室を令和7年度も開催し、乗車マナーの徹底や利用促進を図った。 ◆名鉄瀬戸線の鉄道駅への接続により、通勤・通学の移動手段となるとともに、小中一貫校にじの丘学園の通学手段を確保する路線であるため、沿線協議会等と必要に応じて見直し等を図り、持続可能な公共交通を目指す。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 7年12月 1日

協議会名：	瀬戸市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【概況】 瀬戸市は、市域111.40平方メートルのうち森林が約6割を占めており、市民生活の移動手段として自動車が大きな役割を担っているが、人口減少や高齢化が進展する社会状況のなか、自家用車に頼りすぎず、駅やバスターミナルなどを有機的に連携する交通ネットワークを形成し、将来都市構造として目指している「多極ネットワーク型コンパクト構造」を実現する必要がある。</p> <p>【しなの線(旧瀬戸北線)・赤津線の位置づけ】 しなの線(旧瀬戸北線)は、名鉄瀬戸線の尾張瀬戸駅及び新瀬戸駅、愛知環状鉄道の瀬戸市駅、公立陶生病院に接続しており、地域住民の移動手段を確保するものとなっているほか、令和2年4月に開校した小中一貫校「瀬戸市立にじの丘学園」の児童生徒の通学手段を確保するものとなっている。また、名鉄瀬戸線や愛知環状鉄道に乗り換えることで近隣市への移動を可能とするものであり、地域の活性化を図ることを目的とする。 赤津線は、名鉄瀬戸線の尾張瀬戸駅に接続しており、しなの線(旧瀬戸北線)と同様、地域住民の移動手段を確保するものとなっているほか、令和2年4月に開校した小中一貫校「瀬戸市立にじの丘学園」の児童生徒の通学手段を確保するものとなっている。また、名鉄瀬戸線に乗り換えることで近隣市への移動を可能とするものであり、地域の活性化を図ることを目的とする。</p> <p>【事業実施の必要性】 しなの線(旧瀬戸北線)及び赤津線は、地域で沿線協議会を設置し、地域の実情に応じたバス運行を目指し、行政と地域住民が協働して支えている路線である。この路線は、主に通学・通勤、通院、買い物など生活に必要な移動手段として使用されており、地域住民にとって必要不可欠な移動を確保するものである。特に学生や高齢者など、自動車を運転できない移動制約者にとって、誰もが容易に外出できる機会を確保することが必要である。また、両路線の沿線地域では、65歳以上の割合が市域全体より高くなっているため、安全で安心して移動できる生活交通手段の確保が必要である。</p>